

＜1月26－28日、第4回AMAN（『行動するイスラム教徒のアジア・ネットワーク』）総会開催される。＞

本年1月26－28日、第4回AMAN（『行動するイスラム教徒のアジア・ネットワーク』）総会および20周年記念諸宗教会議が、タイ南部のパッターニー市にあるPS（Prince of Songkhla）大学にて開催された。なお、パッターニー市は、仏教色の強いタイ政府に対し、自治や独立を求めるイスラーム系独立運動の中心地である。

『多文化共生と世界平和』を主たるテーマとして、アジアを中心として約200人が参加した。主な講演者はタムタイ教授（パヤップ大学宗教文化研究所所長、タイ）、チャンドラ・ムザファール博士（JUST主催者、マレーシア）などで、日本からは、木村利人博士（恵泉女子大学学長）が開会挨拶に、また庭野平和財団の野口専務理事が『9条アジア』を代表して参加し、アジアの平和と日本国憲法9条の意義について発表した。

数年前まで仏教徒とイスラム教徒の関係が悪化して、非常に不安定な状況にあったタイ南部の大学で今回の会議が開催され、多数のイスラム教徒以外の宗教者がこの会議に参加したことは、この地方の情勢が安定化しつつあることの証しであろう。閉会式では、このような諸宗教会議の開催にこぎつけたPS大学およびAMAN関係者の努力に参加者から多くの賛辞が寄せられた。

余談だが、パッタニ市への幹線道路には、いまだにタイ国軍による検問所が設けられ、車両や乗員の検問が行なわれており、28日の早朝、宿泊ホテルの近所で爆弾が破裂した。

なお、今回の総会に関する記録はAMAN発行のAMANA誌に掲載されている。